

ALESIS®



リファレンス・マニュアル

同梱内容

Trigger IO 本体
AC アダプター
BFD Lite インストール CD-ROM
USB ケーブル
アタッチメント取付けネジ 2 本
リファレンス・マニュアル(保証書含む)

BLANK

イントロダクション

アレス「Trigger IO」USB/MIDI パーカッション・インターフェイスのご購入おめでとうございます。アレス「Trigger IO」はいろいろなアコースティック・ドラム・トリガーやエレクトリック・パーカッション・パッド、外部ドラム・マシン、ソフトウェア音源等を接続できます。アレスは最新の楽器を演奏するミュージシャンのために電子機器とコントローラーを作製することを誇りに思います。「Trigger IO」は、新しいパーカッション・インターフェイスを備え、音楽の新しい手段を可能にします。私たちは、「Trigger IO」が今日のミュージシャンのための必要なツールであると信じます。「Trigger IO」は理想的パーカッション・インターフェイスです。

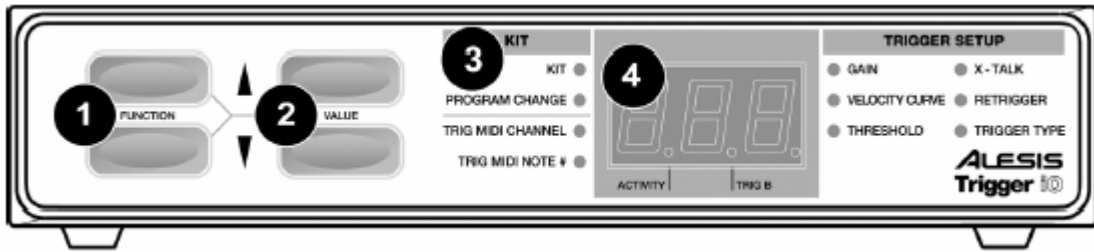
私たちは、お客様が「Trigger IO」を楽しむことを望みます。

ALESIS 社員一同

製品登録

<http://www.alesis.jp> にて「Trigger IO」の製品登録をしましょう。登録をすることにより、私たちは保証を維持することによりお客様を支援します。製品登録は、最新の情報およびソフトウェアをお客様の製品に利用可能にすることを保証します。また、お客様のフィードバックは私たちを向上させます。今後も夢のある「Trigger IO」のような最先端の製品を提供していきます。

トップ・パネルの説明



1. ファンクション・アップ/ダウン・ボタン

これらのボタンは Trigger IO のいろいろな機能を選択するために使用します。

2. バリュー・アップ/ダウン・ボタン

これらのボタンは Trigger IO のキットおよびパラメーターの値を変更するために使用します。

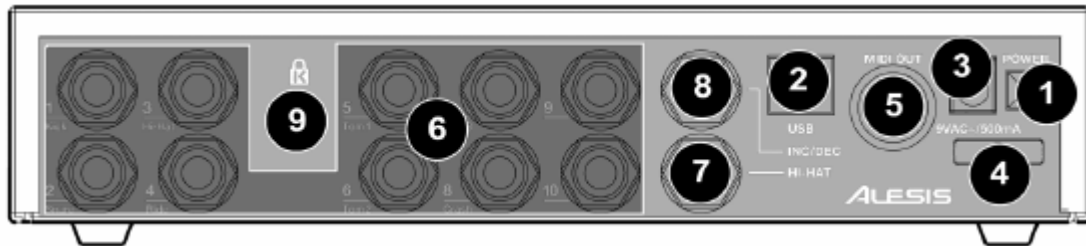
3. ファンクション LED

Trigger IO の各機能はパネル上の LED とペアで対応します。LED は現在、どの機能が選択されているか表示します。

4. LED スクリーン

LED スクリーンは、Trigger IO さまざまな情報を表示します。「ACTIVITY」LED はトリガーがノートを生成することに点灯します。「TRIG B」はデュアル・ゾーンのリグのトリガーのセカンド・ゾーン(ring)がノートを生成することに点灯します。

リア・パネルの説明



1. 電源スイッチ

このボタンはAC/USB電源スイッチとして機能します。ボタンがINの位置にあればACアダプターから、OUTの位置にあればUSBから、電源供給されます。

注意:コンピュータのUSBポートからTrigger IOに十分な電力を供給できない場合は、電源アダプターを使用してください。

2. USBポート

USBポートはTrigger IOとコンピュータの間のMIDIデータを送信するために使用されます。コンピュータから十分な電力を供給できれば電源アダプターは必要ありません。

3. 電源アダプター・インポート

USBポートからTrigger IOに電源供給をしない場合は電源アダプターをここに接続します。

4. 電源アダプター・ケーブル補助

電源アダプターを抜けにくくするためにコードをここに引っ掛けます。

5. MIDI OUT

ドラムマシン、シンセサイザー、音源モジュール等のMIDI INと、このMIDI OUTを接続します。

6. トリガー・インポート(10入力、TRS仕様)

これらの10個のトリガーに $\frac{1}{4}$ " TRSケーブルを使用して接続してください。トリガー・インポートのいくつかにドラムの名称が記入されています。GM、BFDライト等のドラム・マッピングのプリセットを利用したい場合は、記入されたとおり接続します。

7. ハイ・ハット・インポート

ハイ・ハット・ペダルをします。

8. INC/DEC ペダル・インポート

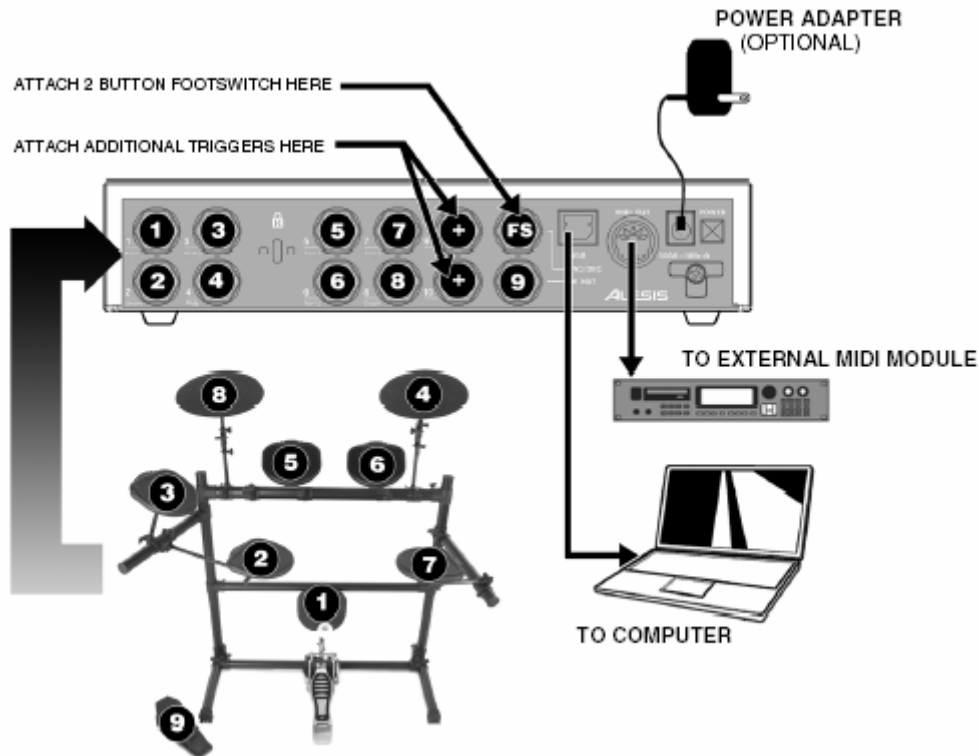
ここに2つのボタンのあるフットスイッチを接続します。このフットスイッチを使用することにより、遠隔にパラメーターの値を変えます。

9. ケンジントン・ロック

Trigger IOを守るためにテーブルやラックに、このケンジントン・ロック・スロットを使用します。

接続図

Trigger IOの接続方法



1. Trigger IOを操作する前に、トリガー、パッド、フットスイッチ、MIDI機器および上に示されるような外部モジュールをすべて接続してください。コンピューターとTrigger IOを使用するときは、Trigger IOとコンピューターのUSBポートにUSBケーブルを接続します。
 2. Trigger IOに電源を接続してください。Trigger IOに電源を供給するためには2つの方法があります。
 - a. コンピューターのUSBポートよりTrigger IOに電源を供給します。
 - b. Trigger IOに9V ACアダプターから電源を供給します。
 3. 電源を接続したらTrigger IOのリア・パネルの電源スイッチを入れます。
- 重要: Trigger IOにトリガーを接続するためには適切なケーブルを使用してください。シングル・ゾーン・トリガーはTSケーブルを、デュアル・ゾーン・トリガーにはTRSケーブルを使用してください。デュアル・ゾーン・トリガーにTSケーブルを使用すると、シングル・ゾーンの部分(TSケーブルのtip)しか反応しません。



Trigger IOはタム、シンバル・スタンド等にマウントすることができます。アタッチメントは現在、市場に出ているほとんど製品と互換性を持ちます。左側に示されるようなドラム・マウント・アタッチメントを付けてください。(本製品にはドラム・マウント・アタッチメントは同梱していません)

コンピューターへのインストール方法

Trigger IOはドライバーやソフトウェアのインストールは必要なくプラグ・アンド・プレイできます。Trigger IOとコンピューターを接続すると自動的にUSBデバイスに認識されます。

Trigger IOのアプリケーション認識方法

1. コンピューターとTrigger IOの各USBポートをUSBケーブルで接続します。
コンピューターとTrigger IOを接続の際はコンピューターから電源供給します。コンピューターと別々に電源供給をするときは9V DCアダプターから電源供給します。
2. リア・パネルの電源スイッチを入れます。電源を入れるとディスプレイが表示されます。

! Tip

Trigger IOの認識確認をするには、パソコンとの接続時にControlPadの電源を切った状態で、パソコンと接続後にControlPadの電源を入れると認識が簡単にできます。

3. アプリケーションを開きます。
4. 次に、MIDI入力デバイスとしてTrigger IOを選択してください。通常、ソフトウェア・アプリケーションのプリファレンス・セッティングの中で行われます。

Windows XPでは、「USBオーディオ・デバイス」あるいは「USBオーディオ・デバイス(emulated)」としてTrigger IOが認識されます。また、MIDI入力が両方ともアクティブであることを確かめてください。



(Cubase LEを例にすると左記のようになります。
デバイス→デバイスの設定→All MIDI Inputs)

5. Trigger IOは、ソフトウェア・アプリケーションと共に使用する準備ができました。

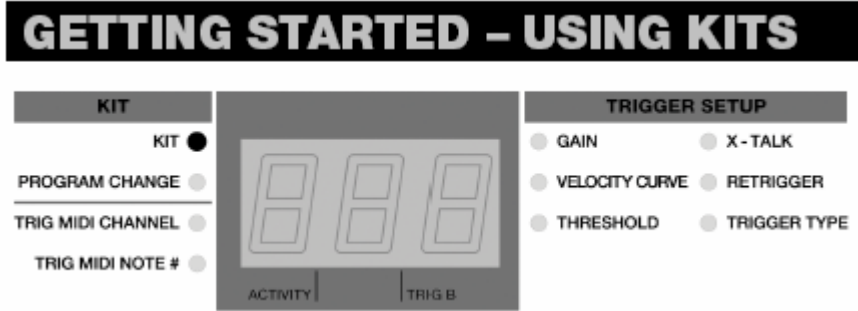
！オーディオ・レイテンシーについて

オーディオ・レイテンシーは、サウンドカードに準じます。これは、コンピューターに入ってくるデータ(例えば MIDI ノートのイベント)を処理したり音声の出力をするために負荷がかかります。レイテンシーはコンピューターの速度が速ければ、少なくなるでしょう。

サウンドカードのレイテンシー(あるいはバッファー)が低い数にセットされることを確かめてください。Trigger IO のパッドを叩いた時、コンピューターは音を速やかに出力するでしょう。レイテンシーとバッファーは通常、プリファレンス・セッティングの中で調節します。一般的に、レイテンシーが約 15-20msより長い場合、パッドを叩いた時に音の遅れに気づき始めます。

あまりにも長いレイテンシーがまだある場合は、インターネットから無料ダウンロード可能で、幅広く活用されているドライバー、ASIO(Audio Stream Input/Output)ドライバーのダウンロードをしましょう。こちらからダウンロードできます。www.asio4all.com。一般的にASIOドライバーは短いレイテンシーで、オーディオとソフトウェアの効率的なコミュニケーションを可能にします。

KIT の説明



Kit とは...

Trigger IO のプリセットのキットは、トリガーの MIDI チャンネル、ノートナンバーをアサインしてあります。これらのセッティングは変更可能です。

Trigger IO は電源を入れると自動的にキット・セレクト・モードに入ります。キットの隣の LED ランプが点灯している事を確認してください。別のモードを選択している時は、キットの LED ランプが点灯するまで、FUNCTION ボタンを数回押して、キット・セレクト・モードに戻ります。

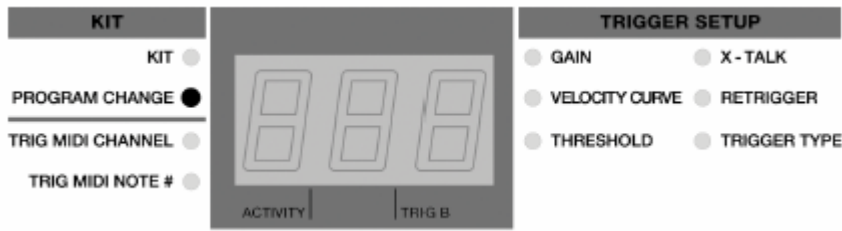
キット・セレクト・モード中は、▲/▼ ボタンを使用して異なるキットを選択します。Trigger IO は自動的にキットをロードし、数値修正も自動的にストア可能な 21 のキットがあります。

KIT のセーブ方法

選択したキットの値(MIDI ノートナンバー、チャンネル)を変更すると、キットの LED が点滅を始めます。これは、まだ変更が保存されていないことを意味します。これらの変更を保存するためには、▲/▼ ボタンで一度、他のキットに移動し、元のキットに戻ると変更を保存します。

もしくは、現在のキットに変更をしているが、それらを保存したくなければ、ファンクション・ダウン・ボタンとバリュー・ダウン・ボタンを同時に押します。これは、キットがロードされた後、行なわれたどんな変更も取り消します。

プログラム・チェンジ・メッセージの説明



プログラム・チェンジは、パッチ・チェンジとも呼ばれ、新しいプログラムに変わらせるデータを送るために使用する MIDI メッセージです。これは、ハードウェアまたはソフトウェアに伝えることを可能にします。例えば、あなたの Trigger IO があなたの DAW もしくは外部機器でロック・ドラム・セットをコントロールしている場合、プログラム・チェンジを使用してエレクトロニック・キットに簡単に変更することを可能にします。プログラム・チェンジ・メッセージは、変更可能です。

Trigger IO のそれぞれのキットはプログラム・チェンジ・メッセージ(0-127)を持つことができます。これは、DAW か外部 MIDI 機器上に異なるセットを組むことを有効にします。初期設定では、それぞれ “---” になっております。“---” のままですとプログラム・チェンジは送られません。

プログラム・チェンジ・メッセージの仕方

1. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して、プログラム・チェンジ・メッセージの LED ランプを点灯させます。
2. プログラム・チェンジ・メッセージの変更は、バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用します。変更したプログラム・チェンジ・メッセージは自動的に保存され、そのキットだけに影響します。
3. 変更したプログラム・チェンジ・メッセージは、キットをロードするごとに、DAW か外部 MIDI 機器に送られます。

「キット」に戻ることで変更を保存される事を忘れずに!

キットのエディット方法

キットのエディットは、Trigger IO をカスタマイズするための重要なツールです。キットの編集中は、スクリーンに表示された情報は常に最後に叩いたトリガーのパラメーターに反映します。トリガーのパラメーターを修正するためには、修正したいトリガーを叩いてください。この呼び出し方法は「チェイス・モード」とも呼ばれます。各トリガーの修正することができるパラメーターは MIDI チャンネルとノートナンバーです。

MIDI チャンネルとノートナンバーは、選択したトリガーのみに影響します。

さらに、トリガー・タイプ、ゲイン、ベロシティー・カーブ、クロス・トークおよびリトリガー・タイムのセッティングは、1 つずつのトリガー当たり編集可能ですが、Trigger IO の全てのキットの中の特定のトリガーに影響します。これらのパラメーターのセットについての情報については、このマニュアルの「グローバル・パラメーターの説明」を参照してください。

トリガーの MIDI チャンネルについて



これはトリガーが情報を送っている MIDI チャンネルです。トリガーはそれぞれ個別のチャンネルで送信をセットすることができます。

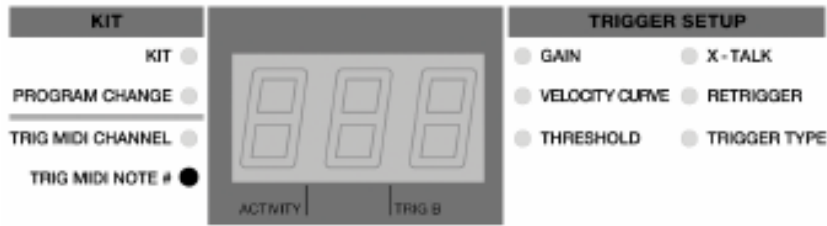
例えば、異なるトリガーを異なる機器あるいはモジュールでコントロールしようとする時、MIDI 情報が特定の機器によってのみ受け取られることを確かめたければ、これは非常に便利です。この場合、外部のシンセサイザーかサンプラーが異なる MIDI チャンネルを読むことができます。その後、異なるパッドにそれらの異なる MIDI チャンネルを送ると、パッドが特定の機器とつながります。

トリガーの MIDI チャンネルの変更方法

1. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して、トリガーMIDI チャンネルの LED ランプを点灯させます。
2. MIDI チャンネルの変更をしたいトリガー、パッドを叩き、呼び出と現在の MIDI チャンネルが表示されます。
3. バリュース・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して MIDI チャンネルを変更します。レベル変更は自動的にロードされます。

「キット」に戻るにより変更を保存される事を忘れずに!

トリガーのMIDIノート・ナンバーについて



これはパッドかトリガーが送っている MIDI ノートナンバーです。

例えば、外部ドラム機器をコントロールしている時、キック、スネアあるいはハイ・ハットに関連した別の MIDI ノートナンバーがあります。初期設定では反応しないかもしれません。恐らく、スネア等は、別のトリガーにアサインされています。トリガーのノートナンバーは、外部ハードウェアかソフトウェアのスネア等のノートナンバーと一致するように変更できます。

Trigger IO でハイハット・ペダルを使用する場合、インプット 3(Hi-Hat)に接続し、2つの異なる MIDI ノートナンバーを送信することができます。ハイハット・ペダルを踏んだ時はクローズの、ハイハット・ペダルを開いた時はオープン MIDI ノートナンバーを出力します。

トリガーの MIDI ノートナンバーの変更方法

1. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して、トリガー・ノート・ナンバーの LED ランプを点灯させます。
2. MIDI ノートナンバーの変更をしたいトリガー・パッドを叩き、呼び出すと現在の MIDI ノートナンバーが表示されます。
3. バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用 MIDI ノートナンバーを変更します。レベル変更は自動的にロードされます。

「キット」に戻るにより変更を保存される事を忘れずに!

グローバル・パラメーターの説明

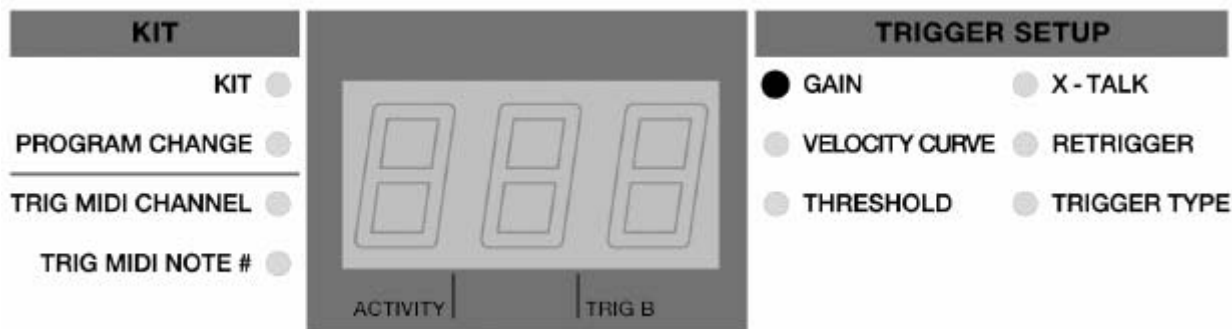
TRIGGER SETUP

- GAIN
- X - TALK
- VELOCITY CURVE
- RETRIGGER
- THRESHOLD
- TRIGGER TYPE

Trigger IO はゲイン、ベロシティー・カーブ、スレッシュヨルド、クロストーク、リトリガー、トリガー・タイプのパラメーターを変更できます。これらのパラメーターはキットを変更しても、セッティングは残ります。

一旦トリガーのパラメーターを調整すると、キットの隣の LED が点滅して変更が行なわれた事を知らせます。MIDI チャンネル、MIDI ノート・ナンバーのセーブ方法同様に、この変更はキットに戻れば保存されます。

GAIN



ゲイン・パラメーターは、トリガーがどのように反応するか設定します。ハイ・ゲイン・セッティングにするにはベロシティーの値を最大にします。このようにするとトリガー・パッドは強く叩く必要はありません。逆に、ロー・ゲイン・セッティングにするにはベロシティーの値を低くします。このようにするとトリガー・パッドを強く叩かなくてはなりません。トリガーを叩いた時に、すぐにベロシティーの最高値（127）が出力される場合はより低い値にそのゲインをセットした方が使いやすいです。これは、プレイ・スタイルにダイナミクスを表現するうえで重要です。

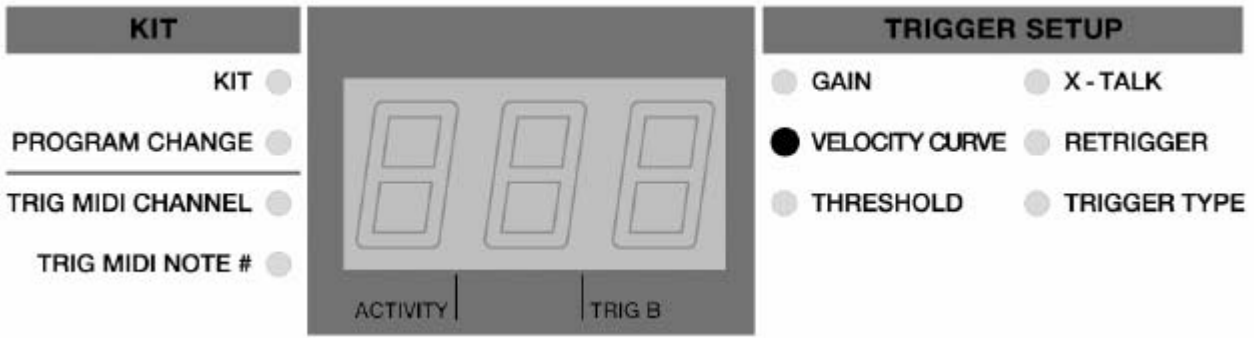
トリガーのゲインの調節は、隣接したトリガー・パッドの「クロス・トーク」も防ぐかもしれません。トリガーの振動が別のトリガーに転送され、トリガーされるためにクロス・トークが生じます。1つのトリガーが他のものより感度が高い場合、少しの振動でトリガーされるかもしれません。その場合はゲインを下げるとクロス・トークを防ぐかもしれません。逆に、トリガーの反応が悪く、強く打たれなければ出力されない場合は、他のトリガーは同様にトリガーされてしまいます。この場合はゲインを増加する事によりクロス・トークを防ぐかもしれません。

トリガーのゲインの変更方法

1. ゲインの変更をしたいトリガー・パッドを叩き、呼び出します。
2. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して「ゲイン」を呼び出します。ゲイン・レベルはディスプレイに表示されます。
3. バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してゲイン・レベルを調整します。レベル変更は自動的にロードされます。

「キット」に戻ることで変更を保存される事を忘れずに!

VELOCITY CURVE

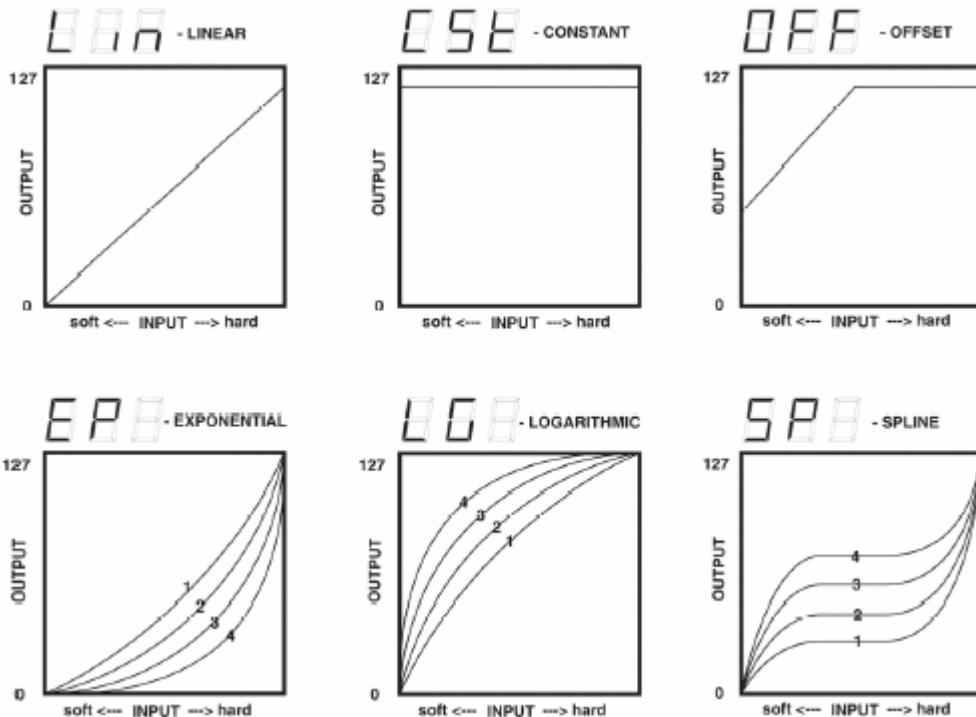


VELOCITY CURVE は、トリガーの速度がどのように反応するかを設定します。VELOCITY CURVE をカスタマイズすることでプレイスタイルに広がりを出すことが可能です。各トリガーに合った VELOCITY CURVE をアサインすることにより、異なったレスポンスを出力します。

ベロシティーは音量や音の明るさをコントロールするために使用するのが一般的です。ハードにプレイすれば、大きな音もしくは明るい音で出力されるとも言えます。

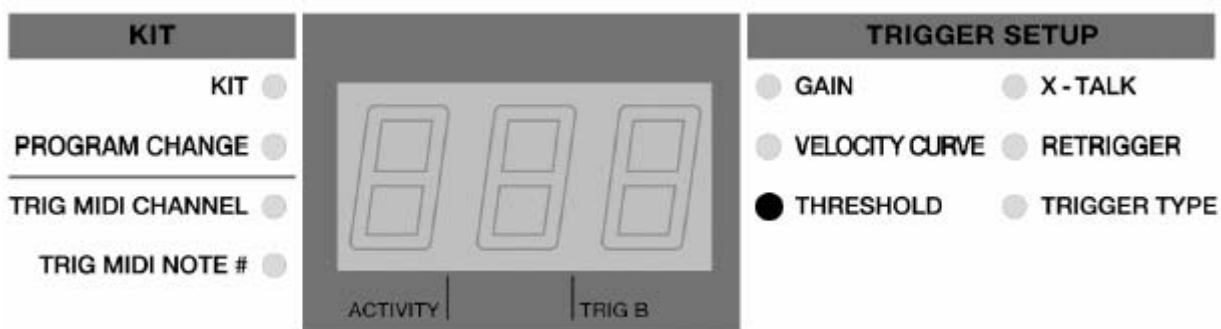
VELOCITY CURVE の変更方法

1. VELOCITY CURVE を変更をしたいパッド/トリガーを叩き呼び出します。
2. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して VELOCITY CURVE を選択します。
3. バリュース・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してレベルを調整します。レベル変更は自動的にロードされます。



「キット」に戻ることで変更を保存される事を忘れずに!

THRESHOLD



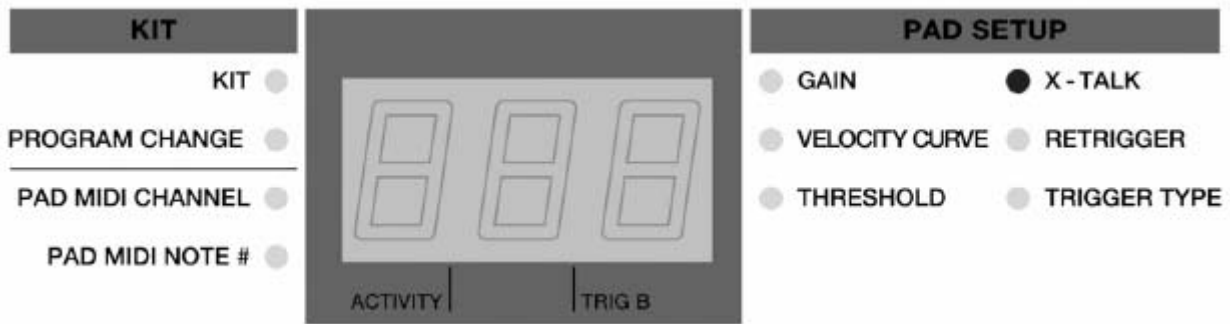
スレッシュホルドの調節は、誤ったトリガリングを防ぐ事ができるかもしれません。スレッシュホルド値は、パッドかトリガーに登録され、出力データに必要とされます。このスレッシュホルド値はユーザーのスタイルを合わせてセットします。一番プレイしやすいセッティングを探しましょう。

THRESHOLD の調節方法

1. THRESHOLD を変更をしたいパッド/トリガーを叩き呼び出します。
2. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して THRESHOLD を選択します。
3. バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してレベルを調整します。レベル変更は自動的にロードされます。

「キット」に戻るにより変更を保存される事を忘れずに!

X-TALK(クロス・トーク)



隣接したトリガーが偽ってトリガリングされる場合、クロス・トークが生じます。例えば、アコースティック・ドラム・トリガーを使用していてドラム・セット上の振動で、あるドラムを打つと他のドラムは振動して、他のトリガーは同様にトリガリングされるかもしれません。クロス・トークに対処する決定的な方法はありません。各トリガーのために GAIN と THRESHOLD のコンビネーションをセットすることによりクロス・トークを改善できます。

X-TALK の特徴は、トリガーIO がクロス・トークを改善すること試みます。通常、X-TALK は、クロス・トークを抑えることを試みます。高いクロス・トーク値にすると、高いベロシティー値を制御します。クロス・トーク値が高いほど、抑えられる速度は高く、最高値の7だとドラム・ロールをするのは難しいかもしれません。

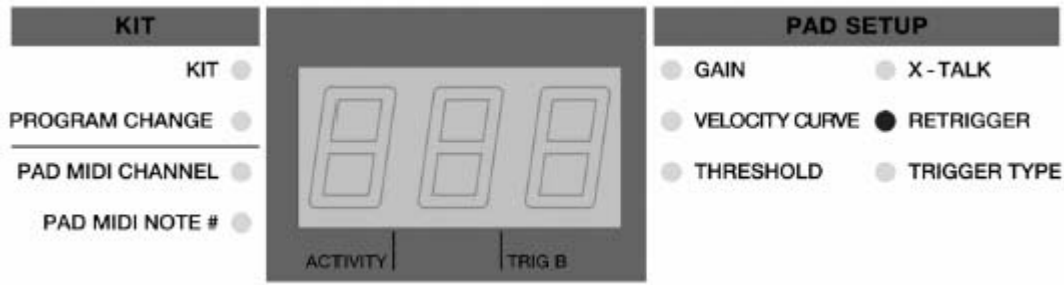
クロス・トークを防ぐために GAIN、THRESHOLD と X-TALK 値を調節して最適なセットを組んでください。クロス・トークの問題の決定的な解決策はありません、しかし、私達は改善策として最善のセットを作成できるように、このようなパラメーターを用意しました。

X-TALK の調節方法

1. X-TALK 値を変更したいパッド/トリガーを叩き呼び出します。
2. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して X-TALK を選択します。
3. バリュース・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してレベルを調整します。(最少 0~最大 7)レベル変更は自動的にロードされます。

「キット」に戻るにより変更を保存される事を忘れずに!

RETRIGGER



RETRIGGER セッティングは、トリガーIO が同じ入力からのトリガーをどのように反応し出力するか説明します。RETRIGGER セッティングは、二つ目のサウンドを出力するために必要とされるトリガー間の時間の設定です。

例えば、RETRIGGER セッティングを 100ms で設定している場合に、トリガーが 50ms の間に 2 度取られても、トリガーIO は 2 度目の音を無視し、1 番目の音だけを出力します。一方では、RETRIGGER セッティングが 25ms にセットされる場合、2 度目の音も出力されます。

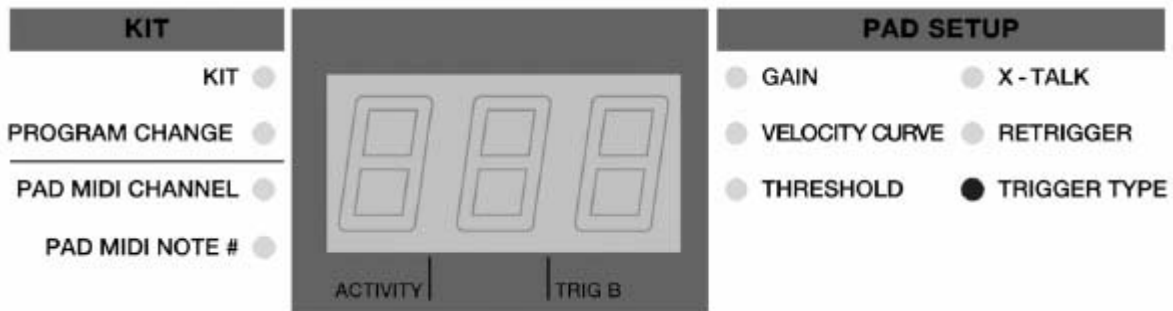
RETRIGGER セッティングはプレイヤーのスタイルによりセッティングが異なるでしょう。例えば、速いドラム・ロールをするには RETRIGGER タイムを短くする必要があるでしょう。

RETRIGGER の調節方法

1. RETRIGGER 値を変更をしたいパッド/トリガーを叩き呼び出します。
2. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して RETRIGGER を選択します。
3. バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してレベルを調整します。(0~127ms)

「キット」に戻るにより変更を保存される事を忘れずに!

TRIGGER TYPE



TRIGGER のタイプを選択します。現在、このマニュアル内で全てをカバーしきれない程のさまざまな仕様のトリガーがあります。しかし、ほとんどのトリガーは下に記載されたように分類することができます。最適な TRIGGER タイプを見つけましょう。

シングル・ゾーン・ドラム・トリガーを持っている場合は、下記の表の「RING」欄は無視してください。ピエゾ・トリガーを使用している時はトリガータイプを「PP」に、スイッチ・トリガーを使用している時はトリガータイプを「SS」を選択してください。

デュアル・ゾーン・ドラムを持っている場合は、TRS ケーブルを使用して、下記の表から適切なタイプを選んでください。デュアル・ゾーン・ドラムを TS ケーブルで使用すると、「RING」の項目を使用しなくても良くなります。

トリガー・タイプの設定正確に下記の表から選択しましょう。間違った選択をすると出力されません。トリガー・タイプの設定項目から他のモードに移行するとプレイできます。

TRIGGER TYPE	TIP	RING
PP	PIEZO	PIEZO
SS	SWITCH	SWITCH
PS	PIEZO	SWITCH
SP	SWITCH	PIEZO
SUS	SWITCH AS SUSTAIN PEDAL*	
HH	HI-HAT PEDAL**	

※ フットスイッチと共に使用した時、踏んだ時はサステイン・メッセージ (MIDI CC 64)を送信します。踏んでいない場合はサステインは機能しません。

※※ ハイハット・フット・ペダルは自動的に検知されますので、トリガー・タイプをセッする必要はありません。

トリガー・タイプのセット方法

1. ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して TRIGGER TYPE を選択します。
2. トリガー・タイプを変更をしたいパッド/トリガーを叩き呼び出します。
3. バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して適切なトリガー・タイプを選択します。

「キット」に戻るにより変更を保存される事を忘れずに!

ハイハット・ペダルの使用方法

Trigger IO でハイハット・ペダルを使用する場合、ハイハット入力(input3)に接続します。ハイハット・ペダルの位置に依存して、2つの異なるMIDI ノートを送ることができます。これは、ハイハット入力(input3)のために、2つの異なるノート割り当てを可能にします。つまり、ハイハット・ペダルを踏んだ状態に別のMIDI ノートナンバーを割り当てることができます。

- ・ ハイハット入力(input3)にオープンなハイハットを割り当てるには、ペダルを踏んでいない状態で接続してください。次に、ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してMIDI ノート・ナンバーを選択し、適切なMIDI ノートナンバーをバリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して選択してください。
- ・ ハイハット入力(input3)にクローズなハイハットを割り当てるには、ペダルを踏んでいる状態で接続してください。次に、ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してMIDI ノート・ナンバーを選択し、適切なMIDI ノートナンバーをバリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して選択してください。
- ・ ハイハット・ペダル入力(HI-HAT)にハイハットの音を出力するためには、ハイハット・ペダルを下へ踏んでください。次に、ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してMIDI ノート・ナンバーを選択し、適切なMIDI ノートナンバーをバリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して選択してください。

ハイハット・ペダル・パラメーターのエディット方法

ハイハット・ペダル・パラメーターを変更する場合、編集機能のうちいくつかは異なるやり方で使用します。ハイハット・ペダル・パラメーターの詳細は、下記を参照してください。

GAIN このセッティングは、他のトリガーの使用法と同じように設定できます。詳細に関してはこのマニュアルの「GAIN」セクションを参照してください。

VELOCITY CURVE このセッティングは、他のトリガーの使用法と同じように設定できます。詳細に関してはこのマニュアルの「VELOCITY CURVE」セクションを参照してください。

THRESHOLD ハイハット・ペダルの THRESHOLD を編集する場合、少々異なる意味を持っています。ハイハット・ペダルの調整には Trigger IO は CC 出力を必要とします。ハイハット・ペダルの位置の間隔は CC の数値により表します。ハイハット・ペダルを細かいニュアンスで使用したい時は、低い値にやあハイハット・ペダルの THRESHOLD 値は低くセットした方が良い結果が得られます。

X-TALK(クロス・トーク) ハイハット・ペダルについては、X-TALK(クロス・トーク)機能はキャリブレーション(測定)機能として使用されます。これは、ハイハット・ペダルを正確に測定することを可能にします。ハイハット・ペダルが選択されていれば、「CAL」とスクリーンに表示されます。キャリブレーション(測定)は手動で調節することができます。また、自動的に調整する時はペダルを踏んでない状態でバリュー・ボタンの▲ボタンと▼ボタンを同時に押します。これで自動的にペダルを正確に測定します。

RETRIGGER このセッティングは、他のトリガーの使用法と同じように設定できます。詳細に関してはこのマニュアルの「RETRIGGER」セクションを参照してください。しかし、このパラメーターはハイハット・ペダルのノート・メッセージではなくハイハット・ペダルのコントロール・メッセージを指すことに注意してください。

TRIGGER TYPE ハイハット・ペダルは、Trigger IO によって自動的に検知されます。したがって、トリガー・タイプをセットする必要はありません。

グローバル・メッセージの送り方

Trigger IOには利用可能な4種類のグローバル・パラメーターがあり、「ALL NOTES OFF」、「RETURN TO DEFAULT VALUE」、「FACTORY RESET」、「MIDI SYSEX TRANSFERS」になります。これらの設定は通常使用する事は少ないですが、便利な機能ですのでおぼえておくと良いでしょう。

ALL NOTES OFF

この機能はMIDIチャンネルにALL NOTES OFFの情報を送ります。ALL NOTES OFFメッセージはパッドを叩いても音がノート・オフされます。この行程は誤ったノートから回復するために使用します。

・ファンクション・ボタンの▲/▼ボタンを同時に押します。

RETURN TO DEFAULT VALUE

この機能は、デフォルト値(初期設定値)のパラメーターをセットします。

・ファンクション・ボタンの▼ボタンとバリュー・ボタンの▼ボタンを同時に押します。

FACTORY RESET

この機能は、工場出荷時のセットアップに全てリセットします。時々、変更しすぎてオリジナルの設定を忘れる事があります。全てをオリジナルの設定に戻したい時に使用します。

Trigger IOの電源を切った状態で、バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを同時に押しながら電源を入れ、2秒以上押し続けます。ディスプレイに「rES」と表示されたら完了です。

MIDI SYSEX TRANSFERS

MIDI SYSEX TRANSFERS (システム・エクスクルーシブ)は、USBかMIDI接続とTrigger IO間でパラメーターとプログラム・データを転送することを可能にします。SysExソフトウェア・エディターを使用して、インターネット上からソフト(SendSX、MIDI-OX、SysEx Librarian)を使用して最新の情報を速く転送することができます。

・Trigger IOにデータ・ダンプを要請するにはTrigger IOがMIDIかUSBのどちらかで SysEX(システム・エクスクルーシブ)に接続されることを確かめてください。次にファンクション・ボタンの▲ボタンとバリュー・ボタンの▲ボタンを同時に押します。Trigger IOからSysExまでプリセットをすべて転送します。

・Trigger IOにデータを転送するにはTrigger IOがMIDIかUSBのどちらかで SysEX(システム・エクスクルーシブ)に接続されることを確かめてください。その後、通常どおりにプレイ状態すればSysEX(システム・エクスクルーシブ)データはTrigger IOに送られます。

Trigger IOとBFD Liteの使い方

Trigger IOは、高品質ドラム・サンプルのBFD Liteソフトウェア・ドラム・モジュールを同梱しています。この組み合わせにより、本物のドラム・セットをコントロールするようにプレイできます。

一度、BFD Liteソフトウェアをインストールしたならば、すぐにプレイすることができます。下記はBFD Liteを使用するにあたり、基本的な方法を紹介します。

1. Trigger IOに同梱されているBFD Liteをインストールします。
2. Trigger IOをUSBケーブルを使用してパソコンと接続します。
3. ウィンドウズを使用している場合は**Start | All Programs | FXpansion | BFD Lite | BFD Lite Standalone**の順に進みます。
Mac OSを使用している場合は**Applications | BFD Lite**の順に進みます。

これはスタンド・アローンのモードでBFD Liteを使用する方法です。その他にお好みのシーケンス・ソフト上でプラグ・インとしてBFD Liteを使用可能です。

4. Trigger IOはプラグ・アンド・プレイで使用できます。それは、一度プレイされたならば、BFD Liteで自動的にプレイできるということを意味します。

トリガー・パッド叩いてみましょう。音が出力されなければ、BFD Liteソフトウェアは正常な出力として好ましいオーディオ・デバイス (内部サウンドカード、外部のオーディオ・インターフェース等)を使用する準備ができていないでしょう。オーディオ・デバイスを確かめる必要があります。



スクリーン左上のポップからデバイスを選択できます。

注: サウンドカードによってはオーディオ・レイテンシーが大きいかもしれません。BFD Liteをスタンド・アローン・モードで使用なら

ば右上にある**Cfg..**(Configuration)ボタンでサウンドカードのバッファの調整ができます。詳しい情報は「パソコンへのインストール方法」(4ページ)を参照ください。



5. パッドを叩き、すぐに出力されればオーディオ・デバイスのセットができたこととなります。

Trigger IOのデフォルト・セッティング(工場出荷時のセッティング)

BFDライト・ソフトウェアにはTrigger IOの工場出荷時のセッティングが用意しており、キットのプリセット0を選択することにより、この配置にアクセスすることができます。

Trigger IOのリア・パネルの配置どおりに接続できます。また、その配置は下に示された通りです。BFDライトを利用するについて下記に述べられた方法でトリガーが接続されることを確認してください。

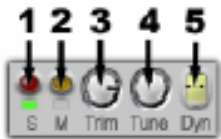
1. KICK NOTE # 35	3. HI-HAT NOTE # 44/42*	5. TOM1 NOTE # 47	7. TOM3 NOTE # 43
2. SNARE NOTE #38	4. RIDE NOTE #55	6. TOM2 NOTE # 45	8. CRASH NOTE # 49

※Trigger IOのハイハット・ペダルのフットスイッチ入力に接続されたペダルを使用する時、ハイハット入力は、ハイハット・ペダルのフットスイッチの位置に依存して、MIDIノート44とMIDIノート42を交互に送ります。ハイハット・ペダルを踏んだままだと、MIDIノート42(close hi-hat)、ペダルを離れた(オープン)ままだとMIDIノート44番(open hi-hat)を送ります。

この配置では、各パッドが異なる MIDI ノートナンバーに関係していることに気づくでしょう。これは MIDI ノートナンバーが特定のパッドをトリガーする事を意味しています。MIDI ノートがどのように使用されるかの詳細に関してはこのマニュアルの「キットのエディット方法」内の「トリガーのMIDIノート・ナンバーについて」を参照してください。

BFD LITE キット・パフォーマンスの調整

それぞれのキットは設定を調整できる項目がいくつかあり、ソロ、ミュート、レベル、チューニング、ダイナミクスの調整が可能です。



1. SOLO(ソロ) このボタンを押すとソロになります。
2. MUTE(ミュート) このボタンを押すとミュートします。ミュートしていると叩いても再生されません。
3. TRIM(トリム) このノブはボリューム・ゲインです。各キットのレベルを調節します。
4. TUNE(チューニング) このノブは各キットの音のチューニング・レベルを調節します。
5. DYNAMICS(ダイナミクス) このコントロールを使用すると、各キットをソフトな音やハードな音に調整できます。BFD Liteには多くのペロシティー・レイヤーが用意されています。ソフトなセットでジャズ・スタイル、ハードなセットでロック・スタイル等に調整できます。

！追加情報

英文になりますがBFD Liteユーザー・マニュアルが付属しています。Start | All Programs | FXpansion | BFD Lite | BFD Lite Manual の順で参照できます。本章(Trigger IO リファレンス・マニュアル)で説明している内容はControlPadとの初歩的な使用方法ですので、詳細はこちらを参照してください。

BFD LITE使用時のキットのカスタマイズ

キットをプレイスタイルに合わせてのカスタマイズできます。パッドに割り当てているMIDIノートナンバーの変更により、パッドがトリガーしている音色をすぐに変更することができます。そうするためには、ファンクション・ボタンの▲/▼ ボタンを使用してMIDIノートナンバーのLEDランプを点灯させ、変更したいパッドを叩き、バリュー・ボタンの▲/▼ ボタンを使用して異なるノートナンバーを呼び出します。

下記はBFD Liteのデフォルト・ノートナンバーのリストです。パッドを好みの音色に変更する時は、上記のように変更しましょう。

NOTE NUMBER	KIT PIECE	HIT STYLE
56	CYM2	BELL
55	CYM2	HIT
54	CYM1	BELL
53	CYM3	BELL
52	HIHAT	HALF SHANK
51	CYM3	HIT
50	HIHAT	HALF TIP
49	CYM1	HIT
48	HIHAT	CLOSED SHANK
47	TOMH	HIT
46	HIHAT	OPEN TIP
45	TOMM	HIT
44	HIHAT	PEDAL
43	TOMF	HIT
42	HIHAT	CLOSED TIP
41	SNARE	FLAM
40	SNARE	RIM
39	SNARE	DRAG
38	SNARE	HIT
37	SNARE	SIDESTICK
36	KICK	HIT
35	KICK	NO SNARE
24	HIHAT	VARIABLE TIP
33	HIHAT	$\frac{3}{4}$ TIP
32	HIHAT	$\frac{3}{4}$ SHANK
31	HIHAT	$\frac{1}{4}$ TIP
30	HIHAT	$\frac{1}{4}$ SHANK
29	SNARE2	FLAM
28	SNARE2	RIM
27	SNARE2	DRAG
26	SNARE2	HIT
25	SNARE2	SIDESTICK
24	KICK2	HIT
23	KICK2	NO SNARE
22	HIHAT	VARIABLE SHANK

その他のアプリケーション

Trigger IOは、それらのコントロール・プロトコルとしてMIDIを使用する様々なアプリケーションに使用することができます。例えば、Trigger IOは音源モジュール、VSTインストルメンツのコントローラーとして使用することができます。これは、ControlPadがビブラホン、マリンバ、木琴、ピアノあるいはバイオリン等のような楽器を演奏することができることを意味します。

このマニュアルにて全体にわたって説明しているように、Trigger IOは、ドラムを叩く事をMIDIノートを使用して行われています。また、MIDIノートは一般的なピアノ上のキーのように表わします。これは、MIDI機器(Trigger IOを含む)から命令され、コントロールする事を可能にします。

このために、一般的なピアノ上のキーのようにMIDIノートナンバーがどのように相当するか手軽な図があります。()の中の数字が対応するMIDIノートナンバーです。

下記の図を早見表として使用できます。

	C8 (96)
	B7 (95)
94	A7 (93)
92	G7 (91)
90	F7 (89)
	E7 (88)
87	D7 (86)
85	C7 (84)
	B6 (83)
82	A6 (81)
80	G6 (79)
78	F6 (77)
	E6 (76)
75	D6 (74)
73	C6 (72)
	B5 (71)
70	A5 (69)
68	G5 (67)
66	F5 (65)
	E5 (64)
63	D5 (62)
61	C5 (60)
	B4 (59)
58	A4 (57)
56	G4 (55)
54	F4 (53)
	E4 (52)
51	D4 (50)
49	C4 (48)
	B3 (47)
46	A3 (45)
44	G3 (43)
42	F3 (41)
	E3 (40)
39	D3 (38)
37	C3 (36)
	B2 (35)
34	A2 (33)
32	G2 (31)
30	F2 (29)
	E2 (28)
27	D2 (26)
25	C2 (24)
	B1 (23)
22	A1 (21)
20	G1 (19)
18	F1 (17)
	E1 (16)
15	D1 (14)
13	C1 (12)
	B0 (11)
10	A0 (9)

ソフトウェアのアップグレード

Trigger IOの環境をより良くするために、ソフトウェアのアップデートが行なわれる事があります。www.alesis.comもしくはwww.alesis.jpにて最新の情報をチェックしてください。

ソフトウェアのアップグレード方法

ソフトウェアのバージョンが最新のバージョンかどうか確かめるには、上記のウェブサイトにて確認してください。

1. Trigger IOの電源が切れている状態で、ファンクション・ボタンの▲ボタンとバリュー・ボタンの▼ ボタンを押しながらTrigger IOの電源を入れます。
2. 数秒後に下記のように表示されます。

UPG followed by X.XX (upgrader version)
APP followed by Y.YY (software version)
FDY ready for upgrade

3. インターネットを利用可能な場合には、ソフトウェアのバージョンをアレスिस・ウェブサイトに掲載されたソフトウェア・バージョンと比較してください。
4. ソフトウェアのアップグレードを続けたい場合は、下記の指示に従ってください。ソフトウェアのアップデートがないか、進みたくない場合は、Trigger IOの電源を切ってください。その後、再度電源を入れて、通常どおり使用することができます。
5. ソフトウェアのアップグレードを続けるためには、コンピューターにSysEx (システム・エクスクルーシブ)をダウンロードしてください。
6. 次に、Trigger IOにSysExファイルを転送するためにMIDI-OXのようなMIDIソフトウェア・ユーティリティを使用してください。
7. アップグレードのデータ転送が進行中の時、ディスプレイが127〜0に下降していくのを見てください。
8. アップグレードが完成したら、スクリーンに **FIN** と表示されます。Trigger IOの電源を一度切って入れなおしましょう。

Trigger IO キットのプリセット

KIT#0 – BFD LITE			INPUT									
ZONE	TIP	CHANNEL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		MIDI NOTE #	35	38	46	55	47	45	43	49	55	53
	RING	CHANNEL	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
		MIDI NOTE #	35	40	48	54	35	35	35	58	35	35

HI HAT FOOT SWITCH – CHANNEL 10, MIDI NOTE # 44
(INPUT3) CLOSED HI HAT NOTE # 42

KIT#1 – GM DRUMS			INPUT									
ZONE	TIP	CHANNEL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		MIDI NOTE #	35	38	46	51	50	48	45	49	55	52
	RING	CHANNEL	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
		MIDI NOTE #	35	37	35	53	35	35	35	35	35	35

HI HAT FOOT SWITCH – CHANNEL 10, MIDI NOTE # 44
(INPUT3) CLOSED HI HAT NOTE # 42

KIT#2 – GM PERC			INPUT									
ZONE	TIP	CHANNEL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		MIDI NOTE #	35	60	70	67	62	63	64	58	75	81
	RING	CHANNEL	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
		MIDI NOTE #	35	61	35	68	35	35	35	35	35	35

HI HAT FOOT SWITCH – CHANNEL 10, MIDI NOTE # 35
(INPUT3) CLOSED HI HAT NOTE # 42

KIT#3 – CHROMATIC 1			INPUT									
ZONE	TIP	CHANNEL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		MIDI NOTE #	60	62	64	66	68	70	72	74	76	78
	RING	CHANNEL	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		MIDI NOTE #	61	63	65	67	69	71	73	75	77	79

HI HAT FOOT SWITCH – CHANNEL 1, MIDI NOTE # 35
(INPUT3) CLOSED HI HAT NOTE # 42

KIT#4 – CHROMATIC 2			INPUT									
ZONE	TIP	CHANNEL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		MIDI NOTE #	48	50	52	54	56	58	60	62	64	66
	RING	CHANNEL	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		MIDI NOTE #	49	51	53	55	57	59	61	63	65	67

HI HAT FOOT SWITCH – CHANNEL 1, MIDI NOTE # 35
(INPUT3) CLOSED HI HAT NOTE # 42

Trigger IO のデフォルト・グローバル・パラメーター

下記は工場出荷時のセッティング・パラメーターです。

	INPUTS 1-10	HI HAT INPUT
GAIN	20	20
VEL CURVE	Lin	Lin
THRESHOLD	4	15
X-TALK	1	10
RETRIGGER	10	40
TRIGGER TYPE	PP	HH

トラブルシューティング

現象: LED スクリーン・ディスプレイが点灯しない

原因: 電源が入っていない

解決方法: USBバス・パワーを使用している場合は、電源スイッチがOUTの位置に、ACアダプターを使用している場合は、INの位置になっているかを確認してください。

現象: <MIDI> 対象になる機器から出力されない

原因: Trigger IOのUSBが接続されていない

解決方法: Trigger IOが正確にインストールされることを確認するためにコンピューターのUSB接続をチェックしてください。USBケーブルの接続を確認後に一度、コンピューターの電源を切り、再び電源を入れましょう。

原因: USBハブを使用

解決方法: USBハブからTrigger IOのUSBケーブルを抜き、パソコンに直接接続してみてください。

原因: Trigger IOからのMIDIデータをソフト側でセット・アップできない

解決方法: Trigger IOあるいはUSBを使用したMIDI機器がアプリケーション側でアクティブなMIDIソースとしてリストされることを確認してください。

原因: ソフト側がMIDIデータを受けない

解決方法: 多くのソフトウェア・アプリケーションにはMIDI IN、OUTのインジケータを持っています。いくつかのパッドを叩いて、MIDI INが点灯しているものを探してください。

原因: Trigger IOのMIDIチャンネルがソフトウェア・アプリケーションの同じMIDIチャンネルに入っていない

解決方法: Trigger IOのMIDIチャンネルはデバイス機器に合わせてください。

原因: Trigger IOのMIDI OUTから5ピンのMIDI ケーブルが音源のMIDI INに接続できない

解決方法: 適切なMIDI ケーブルが接続されることを確認してください。

現象: 外部フットスイッチまたは外部トリガーが逆の動きをする

原因: 外部フットスイッチはTrigger IOの電源を入れた後、入力した

解決方法: Trigger IOの電源を切って、少し時間を待った後に電源を入れてください。Trigger IOの電源を入れる前に、Trigger IOに外部フットスイッチが接続されることを確かめてください。

現象: パッドもしくはフットペダルを出力していない時も、トリガーされている。またはノートが連続的に続いている

原因: ゲインのセッティングが高いかスレッシュホールドが低い

解決方法: ゲインを下げるかスレッシュホールドを上げる

現象: ノートが連続的に続いている

原因: 不完全なMIDIデータ・ノート

解決方法: ファンクション・ボタンの▲/▼ボタンを同時に押し、ALL NOTES OFFのメッセージを送ります。

現象: パッドを叩いた時に隣接したパッドがトリガーされて出力される

原因: パッドのゲイン、クロストーク、スレッシュホールドの設定が正しくされていない

解決方法: このマニュアルの「グローバル・パラメーターの説明」を参照してください。

現象: パッドを叩いて、コンピューター上でトリガーされた音があまりにも多くの遅れがある

原因: コンピューターの USB バスに別のデバイスがある

解決方法: コンピューターから USB デバイス(特にハードディスクドライブのような比重をしめる機器)のプラグを抜いてみてください。

原因: ソフトウェアのレイテンシーのセッティングが正確ではない

解決方法: コンピューター上のソフトウェア・セッティングを調節します(すべてのソフトウェアがこれらのセッティングを持っているとは限りません)。レイテンシーについての詳細はこのマニュアルの「コンピューターへのインストール方法」を参照してください。

現象: SysEX(システム・エクスクルーシブ)からMIDI-OXを使用するとTrigger IOのプリセットが消去する

原因: MIDI-OXアウト・プット・バッファーが正確にセットされていません

解決方法: MIDI-OXアウト・プット・バッファーは少なくとも256バイト以上にセットされることを確認してください。

現象：パッドを叩いてもノートを読み取らない

原因：最適なトリガー・タイプにセットされていない

解決方法：異なったトリガー・タイプを選択します。

原因：スレッシュホールド・レベルが高すぎる

解決方法：スレッシュホールド・レベルを下げる。

現象：デュアル・ゾーンを使用時、デュアル・ゾーンを調節することができない

原因：トリガーの全ゾーンは同時にトリガーしている

解決方法：デュアル・ゾーンのゲインを下げるか、スレッシュホールドを上げる。

現象：いくつかのパッドの出力が大きすぎる

原因：ゲインのセッティングが適切ではない

解決方法：出力レベルを適切にするために各トリガーのゲインを設定してください。

現象：フットスイッチやキットを遠隔に切り替えると、間違っているキットを選ぶ、または変更されない

原因：ソフトウェアもしくはハードウェアのアプリケーションがプログラム・チェンジのメッセージを受けていない

解決方法：ソフトウェア・アプリケーションがMIDIプログラム・チェンジのメッセージを受け取ること確かめてください。いくつかのプログラムはプログラム・チェンジのメッセージを受理しない事もあります。ハードウェア・モジュールを使用している場合は、選択しているドラム・セットがTrigger IOのキットとセットするプログラム・チェンジのナンバーを一致します。

現象：ハイハットのオープン、クローズの音が適切ではない

原因：正確に測定されない設定になっている

解決方法：ハイハット・ペダルのオープン～クローズの範囲を通過して移動する時、ハードウェアもしくはソフトウェア上で完全にオープン、クローズを認識しない場合、Trigger IOを正確に測定する必要があります。

このマニュアルの「ハイハット・ペダルの使用方法」、「ハイハット・ペダル・パラメーターのエディット方法」、「X-TALK(クロス・トーク)」を参照して設定を行なってください。TriggerIOの自動測定については「ハイハット・ペダル・パラメーターのエディット方法」内の X-TALK(クロス・トーク)に記述しております。この作業を行なうことによりフットスイッチとTrigger IO 間は適切に連動します。実際にフットペダルの設定が適切に行なえたら、ユーザーのプレイ・スタイルに合った微調整を X-TALK(クロス・トーク)で行ないましょう。

現象：ハイハット・ペダルを使用していない時にも情報が送られる

原因：ハイハット・ペダルのスレッシュホールド値が低すぎる

解決方法：ハイハット・ペダルのスレッシュホールド値を上げる。

KEY FEATURES

- ・シングル・ゾーン/デュアル・ゾーン対応のTRSTリガー入力 × 10
- ・プログラム可能なプリセット・セットアップ × 20
- ・VST、AU、Dxi プラグイン・フォーマットに対応した、プロフェッショナル・クオリティーのアコースティック/ エレクトロニック・ドラム・サウンド・モジュール、BFD Lite*ソフトウェア(マッキントッシュ版、ウィンドウズ版) をバンドル
- ・素早いエディットとセットアップを実現するイージー・インターフェース
- ・USB 1.1 プラグ・アンド・プレイ(ウィンドウズ、マッキントッシュ)に対応、MIDI OUT
- ・オン/ オフ、あるいはコンティニューアス・コントロール用のハイハット入力
- ・キットをリモートで選択するためのアップ/ ダウン・フットスイッチ入力
- ・パッドの感度、MIDI チャンネル・アサイン、ノート・ナンバー、クロス・トーク、ベロシティー・カーブ、スレッショルド、リトリガー・タイム、パッド・タイプを個別に設定するカスタマイズ・トリガー・セッティング
- ・オプションのドラム・スタンド用マウント・ホール

*BFD Lite はFXpansion 社の製品です

サイズ・重量

サイズ: 21.5cm × 4.8cm × 13.3cm (W × H × D)

重さ: 約900g(アダプター含まず)

MIDI IMPLEMENTATION

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1-16	X	Memorized
	Changed	1-16	X	Adjustable by user per pad
Note Number:		0-127	X	
Velocity	Note On	1-127	X	
	Note Off	0	X	
After Touch		X	X	
Pitch Bend		X	X	
Control Change	Ctrl # 4	0-127	X	Foot Pedal CC message
	Ctrl # 64	0-127	X	Sustain Pedal CC message
Program Change		0-127 *	X	
System Exclusive		O	O	
System Common	Song Pos	X	X	
	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
System Realtime	Clock	X	X	
	Commands	X	X	
Aux Messages	Local On/Off	X	X	
	All Notes Off	O	X	
	Active Sense	X	X	
	Reset	X	X	
	GM On	X	X	
Notes:				
* 1 Set Per Kit				

O:YES
X:NO

アレスシス限定保証

アレスシス・コーポレーション(以下アレスシス)は、本製品の不良パーツ及び機能の不具合に対し、以下の通り保証します。

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証サービスは購入者のみに有効で、第3者に転用・譲渡はできません。

より良いサービスの提供のため、製品をお買い上げいただいた後に、アレスシスの Web サイト(<http://www.alesis.jp>)でユーザー登録をして下さい。

保証期間中に、アレスシスまたは指定のサービス代理店の検査で不具合が発見された場合には、アレスシスはいかなる製品も無償で修理または交換します。本保証に関するいかなる紛争も、法律の規定によって解決します。

保証サービスを受けるために、購入者はアレスシス Web サイトに記載された住所、または電話番号に連絡の上、Return Authorization Number(返品承諾番号)を受け取り、保証サービスを受ける際の返品場所などについて、指示を受けて下さい。お問い合わせの際には必ず、不具合の詳細をお知らせ下さい。保証サービス範囲内での返品は、適切な梱包をした上、元払いでアレスシスまたは指定の修理工場にお送り下さい。

返品の場合は、保証書、領収書(レシート)または購入を証明できるその他の有効な書面を添付し、対象製品が保証期間内であることを明らかにして下さい。アレスシスは、修理のために返品されたいかなる製品に対しても、最新のものに交換する権利を有します。アレスシスは事前の通知なく、いつでも製品の仕様を変更または改良する権利を有します。誤った使用方法、不注意、改造や不当な修理による故障については、保証サービスの範囲外となり、サービスは適用されません。正常な使用状態で、本機のパーツや機能に不具合が生じた場合にのみ、保証サービスが適用されます。

アレスシスは、製品の使用不可能または不具合に基づく損害、また法律の定める範囲内での人身傷害を含める、いかなる二次的、及び間接的な損害賠償の責任を負いません。保証条件や本保証に基づきアレスシスが負う責任は、販売国の国内でのみ有効です。本保証で定められた修理は、各販売国で正式なアレスシスのサービス代理店でのみ行われるものとします。各国ごとの保証サービスについては、それぞれの地元販売店にお問い合わせ下さい。

Alesis 窓口情報(日本国内)

プロ・オーディオ・ジャパン株式会社

テクニカル・サポート 行

〒220-0022 神奈川県横浜市西区花咲町 7-150 ウエインズ&イッセイ横浜ビル 5F

Tel: 045-290-6390

Fax: 045-326-2046

E-mail: alesis@alesis.jp Web site: <http://www.alesis.jp>

無断転載、全部または一部の複製を禁ず。仕様は予告なく変更する可能性があります。

ALESIS

© 2007 プロ・オーディオ・ジャパン株式会社